

平成 31年

1 月号

No.591

# 法音

今月の  
ご法話

運命は自分から作り、  
幸福は自分から求めるもの  
④

日蓮宗  
法音寺



# 知恩報恩

## 感謝と親切

今日一日、  
受けた恩に感謝しましょう。  
恩を忘れぬ人は信頼されます。  
今日一日、  
人に親切にしましょう。  
人が喜び、自分もうれしい。  
仏の教えは  
知恩報恩の人となることです。

## 月刊・法音

平成三十一年一月号「591」

■目次■

【信仰の指針】果報かほう 良い種まきをしていますか

新年のご挨拶 鈴木正修

【顕修院日達上人第七回忌御報恩法要虔修】

【朝のこない夜はない】

運命は自分から作り、幸福は自分から求めるもの④

山首 鈴木正修

〔年賀〕

【新春特集】講演抄(6)

【得度式】

■御守・御札のご案内

■まんが・檀王

■檀王について

■ここのはの記 合掌礼拝の心

■「聖教」から見る広宣流布と文書布教

■支院たより

■福祉に生きる 保育所・天王保育園の実践

■日本福祉大学・日本福祉大学中央福祉専門学校開校30周年

■幸せの種まき／編集後記

■連載まんが・ひまわり・72 ありがたみ

■平成31年・法音寺年間行事のご案内

表紙題字・信仰の指針 山首上人さま書 表紙写真・胡蝶ラン

掲載写真 表紙・扉・10頁・裏表紙・梅田雅臣氏撮影  
信仰の指針・29頁・33頁・35頁・41頁・加納将人氏撮影



信仰の指針

果報かほう

良い種まきを

していただけますか

日教五

の  
乗りて見よ

のり  
法の御舟の心地よさ

なに  
何にたとえん

ものもあるまじ

— 始祖 しそ 安立大法尼御詠 あんりのだいほうにぎよえい —



ユズ

◆ 新年のご挨拶 ◆

鈴木正修 友

平成三十一年己亥正月を迎え、皆さま方に心より新春のお慶びを申し上げます。

昨年より三徳開教百年の御報恩法要が各支院で執り行われております。開教当初より始祖安立大法尼は三徳の御教えを説かれる前に

「あなたは何のためにこの世に生まれてきましたか」とよく聞かれた  
そうです。なかなか即答できる人はいなかったようです。

「奇跡の学校」と言われる「松下村塾」の塾頭・吉田松陰も塾生達に  
この質問をしたそうです。「わかりません」と答えた塾生に対して、

松陰は「至誠を貫きなさい」と教えたのです。松陰は日常の中でやら  
なければならぬこと（例えば掃除など）を真剣に、絶対に手を抜か  
ないでやり続けられれば、いつか必ず人生での役割に気づくと言っているのです。

昨年九州場所初優勝を果たした、貴景勝関が優勝インタビュー  
で忘れられない思い出として語っていたことがとても印象に残っています。  
ます。

小学四年生の時、所属していた相撲クラブで貴乃花部屋を訪れた際、貴景勝関は親方に「ライバルの武蔵丸や曙と戦う時はどういう気持ちで臨んだのですか？」と質問しました。それに対して親方は「余計なことは何も考えず、ただ毎日、淡々と四股を踏んだだけです」と答えました。入門後も技術論はほとんど無く、「四股を踏め。四股を踏め」だったそうです。親方の真意は「無心で足を動かし、四股を踏みながら、自らの内面を見つめよ」と言うことだったのです。「今回の優勝で少し理解できるようになった」と貴景勝関は語っていました。

「鍋島論語」と言われる『葉隠』に次のような一節があります。

「端的只今の一念より外はこれなく候。一念一念と重ねて一生なり。」

ここに覚え付き候えば、外に忙しき事もなく、求むることもなし。この一念を守って暮すまでなり」

(結局のところ重要なのは、現在の一念、つまり、ひたすらな思いよりほかには何もないということである。一念一念と積み重ねていって、つまりはそれが一生となるのである。このことに思いつきさえすれば、ほかに忙しいこともなく、探し求めることも必要なくなり、ただこの一念、つまり、ひたすらな思いを守って暮らすだけである)

本年はぜひ、日常において唯ひたすらな思いで三徳の実行に励んでいただけたらと思います。

皆さまの本年のご多幸を心よりお祈りしております。

# 顕修院日達上人第七回忌御報恩法要虔修



本日、当山第二世顕修院日達上人の第七回忌御報恩法要を皆さまのお陰をもちまして、無事厳修することができました。衷心より御礼を申し上げます。

早いもので平成二十四年十二月十八日の御遷化から六年が経ちました。

この間、東京支院、三原支院、そして瀬戸布教所の新本堂を建立することができました。これもひとえに三先師、日達上人の御加護と檀信徒の皆さまの積善の賜と報恩感謝の念を深くするところであります。

本年は日達上人の七回忌であるとともに、三徳開教壹百十年という年でもあります。これを記念し、御報



恩浄業として『聖教』でいりのおんを発刊させていただきました。これを縁ある多くの方々に読んでいただき、その方達が如説修行され、真の幸福な境涯に至られんことを心より願うものであります。また本年十一月二十一日には長男孝信が出家得度し、僧名廣修を名のらせていただいております。本当にありがたいことと心より喜んでおります。

これよりは三先師、日達上人の御恩に報いるべく、より一層の精進をする所存でおります。どうか廣修ともどもご指導ご支援の程、よろしくお願いいたします。

平成三十年十二月十七日

法音寺山首 廣頭院日教

# 朝のこない夜はない

山首 鈴木正修



うんめい  
運命は自分から作り、

こうふく  
幸福は自分から求めるもの ④

こんかい  
今回は『陰鶯録』の第三章「積善」についてのお話です。

しやくぜん  
積善とは「徳を積む」ということです。袁了凡は積善について『易経』を引用しています。『易経』は東洋最高の哲学書です。孔子はこれを何度も読んで、木簡を閉じている革のひも（韋）が三度切れたといっています。このことを「韋編三絶」と言い、繰り返し返し本を熟読することを意味します。

えいせい  
易経の中に「積善の家には必ず余慶あり。積不善の家には必ず余殃あり」とあります。徳を積んだ先祖がい



れば、必ず子孫はその恩恵を受ける。罪障を重ねた先祖  
が、いれば必ず子孫はその報いを受ける。ということだ。

袁了凡のお話の中に、叔梁紇という人が出てきます。

代々よく徳を積む家の人で、この人もまたとても謙虚で  
徳を積む人でした。この叔梁紇に、顔甫という人が娘を  
嫁がせたいと思いました。三人娘がいて、長女も次女も  
「嫌だ」と言いました。叔梁紇が年をとっていたからで  
す。しかし三女が「私が嫁ぎましょう」と言ったのです。  
顔甫は喜んで「あの男に嫁げば必ず良いことがある。あ  
れだけ徳を積む家はない。必ずお前も子孫も繁栄するだ  
ろう」と言い、生まれたのが孔子です。今も孔子の一族  
は繁栄しているそうです。まさに「積善の家には必ず余  
慶あり」です。



## 『陰鷲録』に掲載されている二つの話

「積善」の章には具体例がたくさん出ていますがその中から二つ紹介します。昔、鄧茂七という悪人がいました。この男が大勢の人をたぶらかして反乱を起こしたのです。日本の室町時代の頃です。たくさんの人を殺して町という町を蹂躪しました。鄧茂七は、張楷という将軍に捕まります。その後、将軍が部下の謝都事に「まだまだ残党がたくさんいるから、残党を皆殺しにしてこい」と命令します。しかし残党というのは、貧乏な農民が止むに止まねず反乱に加わったというのが大半でした。そのことを謝都事は知っていました。そこで部下に「帳面を十冊と白い布をつけた小旗を数千本持ってこい」と命じました。そして謝都事は「その辺りの村々の主だった者を集めてこい」と言って人を集め、「そなた達は、やむをえ



ぬ事情で反乱軍に従ったのであろう。もし今から自分達の非を改めて、元のように良き民となるなら、私の命に代えても助けてやろう。なお背こうと思うものは処罰することになる。もし悔い改めようと思う者は、そなた達一人ひとりこの帳面に名前を書き、名前を書いたものは悔い改めた印として、この白い小旗を戸口に掲げよ」と言いました。そして部下達に「今から残党の討伐にかかる。しかしむやみに人を傷つけたりしてはいかん。況やむやみに人を殺してはならん。そういったことをした者を私は絶対に許さん。死罪にするかもしれない。また特に戸口に白い旗を掲げた家には絶対に手出しをするな」と厳しく兵隊達を戒めました。これによって、殺されるはずだった残党の人達が一人一人助かりました。謝都事は一人の命を救ったのです。人の命を救う徳は大変大きなものです。一人の命を救うことでも大きな徳ですが、そ



れが一万人ですから、とてつもない徳です。その後、謝都事の子・謝遷は、科挙の最後の試験、殿試で一番の状元となり、宰相となりました。謝遷の子・謝否も殿試を受けて三番で受かり、探花となりました。人の命を救うということは本当に大きな功德があるということです。

もう一つは屠康僖という裁判所の事務方の人の話です。昔も今も冤罪というものがありますが、屠康僖は身分を隠して刑務所に入り、囚人達の話聞いて冤罪は無いか調べました。すると、無実の者が何人もいるのがわかりました。「その人達を救ってもらえないか」と裁判所の長官に進言しました。それが認められ、裁判がやり直しになり、無実の人達が救われました。また屠康僖は「私が調べたということは一切内緒にしてください。すべてあなたの判断でされたことにしてください」と言ったの



で、この長官は名裁判官として知られるようになりまし  
た。屠康僖は長官に「都でもこんなことがあるというこ  
とは、地方にいったらもつとたくさんあるでしょう。そ  
ういった人達を救いたいと思います。長官の名前で皇帝  
に進言してもらえませんか」と言いました。そして、こ  
れが通り、五年に一度再審をしようという事で減刑官  
が地方に行くことになりました。屠康僖も減刑官に選ば  
れて、多くの冤罪の人達を救いました。ある日、屠康僖  
は夢を見ました。夢に神さまが現れて「そなたの運命で  
は子どもは一人もいないところであったが、このたびそ  
なたが減刑官という職を作るよう裁判官を通じて皇帝に  
奏上した。これを天帝が非常に喜ばれた。よって天帝よ  
りそなたに尊い三人の子どもを与えることになった」と  
言い、このあと本当に三人の男の子が生まれて三人とも  
高官になりました。善いことをすれば、必ずその因果が



本人、そして子孫にも伝わっていくのです。

## 徳積みは子孫に反映される

安岡正篤氏が『陰鷲録を読む』の中で言っておられます。昔、アメリカ政府がおもしろい調査をしました。非常に悪質な家系と非常に優れた家系、その子孫を追跡調査したのです。それを見ると本当に積善の家、余慶あり。積不善の家、余殃ありがわかります。悪質な家系とされたジューク家の初代ジュークは1720年にニューヨークの片田舎で生まれた怠惰な無頼漢です。彼から六代の間に1200人の子どもが生まれました。その中300人が赤ん坊の時に死に、310人が極貧のため收容所に入れられ、440人が病的な不良、女子の過半数は売春婦でした。さらに130人が監獄に入るといった



ような状況で、真面目な職業に就いたものはわずか20名  
だったのです。これに対して優れた家系とされたエドワ  
ーズ家、初代のジョンサン・エドワーズは1700年の  
初頭に生きたアメリカの代表的な神学者です。判明した  
子どもの数は1394人、その中、1295人が一流の  
大学を卒業し、3人が大学の総長、65人が大学教授、1  
00人以上が牧師、神学者、60人が作家、新聞記者、法  
律家になったものが100人以上、その他30人が裁判官、  
80人が官公職につき、その中には副大統領や上院議員に  
なった人もあり、それぞれが社会の人から尊敬される地  
位について繁栄していったのです。徳と罪というものは遺  
伝のように子孫にずっと続いていくようです。

袁了凡は徳を積む心得として「ただ善事でさえあれば、  
どんな小さなことでも捨ておかず、飢えたる者が食を求  
めるように、渴した者が水を求めるようにひたすら飽く



ことなく功德を求めよ」と言っています。徳を積もうと  
思う気持ちが大仕事なのです。

## 法音寺の昔の信者さん達の徳積み

『仏感化救済会の信仰』という本の中の、中島勇一さんのお話を紹介します。

「私は三徳の修養をするようになって、まず今日までの自分の生活を反省してみました。そして、いろいろな無駄や、寒心すべき行いに気づき慄然としました。それから妻とともに語らい合い、悪い行いは直すようにしました。八百屋へ行ったら成るだけ品物の悪いのを、また秋刀魚等は小さいのを撰って、それを値切らず買って来るようにしました。そうすれば後から買いに行った人々には良い品物を買うことができ、その人達を間接に喜ばせ



てあげられるし、ひいては八百屋さんも喜ぶでしょう。  
すべて買い物はこんな風にしてやることにあらためまし  
た」

次は安井鉦五郎さんのお話です。

「私の友達に市電の車掌をしている人があります。その  
友達が職務上一番困るのは、ラッシュ・アワーなどの時  
電車賃の釣銭を出すことだと申しました。『甚だしい時  
には、六銭の電車賃を十円札で出す人がある。こんなのは  
番外だけれど、それでも五十銭なんかで出すのはいく  
らでもある』と申しました。

私はこれをその友達に聞いてから、必ず電車に乗る前  
に釣銭のいろいろな様に六銭の用意をしておくことにして  
おります。こんな些細なことですけれど、これで少して  
も車掌さんに迷惑をかけずにすませたら…と思って実行



しております。私は電車に乗ってやるぞ！という気持ちより、電車に乗せてもらうという気持ちが大切だと思っております」

このような小さなことでも徳積みを心掛けることが大事だと思っております。

## 国際救助隊の活動

人材育成の専門家の福島正伸さんという方が『まわりの人を幸せにする55の物語』という本を出しておられます。この人は国際救助隊というものを組織されています。国際救助隊というのは、どんなことでも人のためになることをしよう。通りすがりのように、良いことをして風のように去っていくという人達の集まりです。



以下、隊員の方のエピソードです。

「今日の朝、福島市では雪が降っていました。結構積もりました。会社近くの道路で、側溝に雪が積もっているのに気づかず、はまってしまった車を発見しました。さすが社員に救助要請をかけて重機で無事救助しました。もちろん通りすがりの者ということで、すぐに立ち去りました」

「僕の住む七尾は午後から大雪。早速、一人暮らしのおばあちゃんの家の前を、こっそり除雪してみました。無事、誰にも知られず任務完了！冷えた体をお風呂で温めました」

「いつも黙々とレジで精算してくださる係の人にかける



言葉を『どうも』から『ありがとう』に変えました。笑顔になる人が多く、気持ち良かったです。これからはいつでも『ありがとう』にします」

「おしゃれな花屋さんのレジに行列ができていました。時計を見ながらちよつとそわそわ気味の若い男性がいらつしゃったので『お先にどうぞ』と列の順番を譲りました。『プレゼントですか?』と聞くと、恥ずかしそうに『はい、そうです』と言われました。こちらもうキウキした気分になりました」

「先日、閉店間際の回転寿司に行きました。私はいつもまわっている寿司を見ながら、新鮮な寿司が欲しいと、席にあるモニターでオーダーしていました。けれども妻は、毎回まわっている寿司しか手にとりません。あまり



気にしていなかったのですが、少しくたびれたようなハ  
マチに手を出したので、『こっちでオーダーするともつ  
と新鮮なのが来るよ』と言うと『これ、このままにして  
おいたら捨てられちゃうでしょ、もったいないじゃない』  
と言いました。妻も隊員かもしれないと思いました」

「今日は仲間とバーベキューでした。自然豊かで、いろ  
んな人がバーベキューをする場所。残念ですが、ゴミや  
タバコの吸い殻がたくさん落ちていました。バーベキュー  
を終えて片づけた後に、来た時に落ちていたゴミも全  
部拾って持ち帰りました。『来た時よりも美しく』の任  
務完了。自然が喜んでいました」

まずは身近な小さな徳積みからです。これがとても大  
事です。これこそが始祖の教えです。



# 謹賀新年

日蓮宗

# 法音寺

感謝と親切

「ありがとう」と言う

私から

「ありがとう」と言われる

私に

平成三十一年元旦



内局委員会  
評議員会



進師法縁法音会  
檀信徒代表者会  
全国信教師会

講話日・毎月七日・十七日・二十七日

日蓮宗  
大乘山

# 法音寺

講話日：毎月7日・17日・27日〔午後1時30分〕

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3

TEL. 052-831-7135 FAX. 052-831-9801

支院名・主管者(担任)名	住 所・TEL	毎月の講話日
高 槻 支 院・関 哉 妙 綾 せき や まい りょう	大阪府高槻市天神町1-9-2 〒569-1117 ☎(072)685-1003	第1日曜日 11日・21日
大 阪 支 院・古 山 昭 顕 ふる やま しょう けん	大阪府大阪市此花区西九条3-4-41 〒554-0012 ☎(06)6465-5051	第2日曜日 23日
福井布教所・田 中 裕 た なか ゆたか	福井県あわら市春宮3-28-2 〒919-0632 ☎(0776)73-5234	第3土曜日
和 泉 支 院・上 田 智 淳 う え だ ち じゅん	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404 〒598-0091 ☎(0724)66-3112	第1日曜日 14日・22日
神 戸 支 院・田 中 常 行 た なか じょう ぎょう	兵庫県神戸市兵庫区五宮19-17 〒652-0007 ☎(078)360-4884	第2土曜日 21日
淡 路 支 院・田 中 常 行 た なか じょう ぎょう	兵庫県南あわじ市神代国衙910 〒656-0455 ☎(0799)42-0175	5・15・25日
岡 山 支 院・梅 田 浄 顕 う め だ じょう けん	岡山県岡山市南区若葉町1-16 〒702-8047 ☎(086)262-0818	第1日曜日 7日・23日
高知布教所・山 本 雅 子 やま もと まさ こ	高知県高知市上町5-5-39 〒780-0901 ☎(088)823-1983	12日
福 山 支 院・宮 崎 良 祐 み や ぎ さ りょう ゆう	広島県福山市西町3-19-5 〒720-0067 ☎(084)921-3078	1日 第3日曜日
三 原 支 院・森 の 野 智 広 も り の の ち こう	広島県三原市皆実2-9-22 〒723-0052 ☎(0848)62-5087	第2土曜日 第4日曜日
安芸津支院・湯 本 妙 順 ゆ もと みょう じゅん	広島県東広島市安芸津町三津3765-3 〒739-2402 ☎(0846)45-4012	第1土曜日 第4日曜日
坂 支 院・三 宅 善 祐 み や け ぜん ゆう	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12 〒731-4313 ☎(082)885-1064	第1、又は 第2日曜日
福 岡 支 院・大 庭 圓 昭 おお ば えん しょう	福岡県福岡市早良区城西2-11-37 〒814-0003 ☎(092)821-7975	第1日曜日 第3日曜日 15日
壱岐布教所・三 好 敏 博 み よし とし ひろ	長崎県壱岐市石田町池田東触1112 〒811-5221 ☎(0920)44-5445	13日・23日
筑後布教所・蒲 池 厚 かま ち あつし	福岡県筑後市大字西牟田5954-1 〒833-0053 ☎(0942)53-7273	第2日曜日 第4日曜日
天草布教所・大 庭 持 念 おお ば じ ねん	熊本県上天草市大矢野町維和1502-1 〒869-3604 ☎(0964)58-0742	1日
田 川 支 院・手 嶋 敬 徳 て しま けい とく	福岡県田川市春日町7-30 〒826-0026 ☎(0947)42-1819	第2日曜日 第4日曜日
名古屋地区・島 田 知 教 しま だ ち しょう	愛知県名古屋市中区昭和区駒方町3-3 〒466-0832 ☎(052)831-7135	7・17・27日
瀬戸布教所・たか はら よし かず たか はら よし かず	愛知県瀬戸市東本町2-20 〒489-0816 ☎(0561)85-6860	9・19・29日
亀岡布教所・田中節子 田中悠子 山藤明江 嶋崎婦美子	京都府亀岡市篠町篠牧田73-1 〒621-0826 ☎(0771)25-7807	第2月曜日 第4日曜日

※講話日は行事によって変更になる場合があります。

# 謹賀新年

支院名・主管者(担任)名	住 所・T E L	毎月の講話日
大乗山 泰明寺・鈴木修徳	愛知県名古屋市中村区名駅2-37-3 〒450-0002 ☎(052)581-2069	5日・20日
開基堂・高浪慈成	愛知県江南市寄木町天道18 〒483-8184 ☎(0587)53-5436	10日
東京支院・猪原善昭	東京都練馬区谷原2-6-37 〒177-0032 ☎(03)3904-1251	第1日曜日 15日 第4土曜日
山形布教所・小山幸子	山形県山形市長町2-4-6 〒990-0811 ☎(023)681-0770	10日
静岡支院・新庄義真	静岡県磐田市城之崎4-7-3 〒438-0084 ☎(0538)32-6625	2・12・22日
豊川支院・三宅善祐	愛知県豊川市中野川町1-26-3 〒442-0885 ☎(0533)86-4704	4日・20日
安城支院・島田行学	愛知県安城市新田町小山31-25 〒446-0061 ☎(0566)76-2504	第1、又は、 第2日曜日 18日・28日
明川支院・毛利行徳	愛知県豊田市明川町堂ノ脇1-2 〒444-2601 ☎ご連絡は本山寺務局へ	11日 第4土曜日
佐屋支院・村上善立	愛知県愛西市大井町浦田面296 〒496-0921 ☎(0567)32-1825	4日 第2日曜日 24日
一宮支院・伊藤妙清	愛知県一宮市大江1-7-4 〒491-0851 ☎(0586)72-7208	5・15・25日
西春支院・渡辺英覚	愛知県北名古屋市九之坪東ノ川20 〒481-0041 ☎(0568)22-5813	2・12・22日
岐阜支院・前原智明	岐阜県岐阜市切通7-15-22 〒500-8237 ☎(058)245-2939	4・14・24日
笠松布教所・岩田正揮	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23 〒501-6042 ☎(058)388-2740	12日
大垣支院・香村浄音	岐阜県大垣市宝和町5 〒503-0972 ☎(0584)78-4854	1・11・21日
関支院・吉橋顕良	岐阜県関市西福野町2-15-11 〒501-3244 ☎(0575)22-0776	3・13・23日
平賀支院・後藤善晃	岐阜県関市市平賀213-2 〒501-3822 ☎(0575)23-3771	5・15・25日
郡上八幡支院・渡辺義彰	岐阜県郡上市八幡町小野721-3 〒501-4221 ☎(0575)65-3933	8日・22日
四日市支院・祖父江瑞法	三重県四日市市赤堀2-4-7 〒510-0826 ☎(059)352-3633	3・13・22日
上野支院・橋本道念	三重県伊賀市上野向島町3475 〒518-0875 ☎(0595)21-0127	1・11・21日
京都支院・安藤順冠	京都府京都市上京区北横町360 〒602-0818 ☎(075)231-3437	1・9・20日

# 謹んで新春の お慶びを申し上げます

徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

## 社会福祉法人 昭 徳 会

■児童養護施設

駒 方 寮  
名 古 屋 養 育 院  
名 古 屋 若 松 寮

■障がい児入所施設

小 原 学 園

■障がい者支援施設

小 原 寮  
泰 山 寮

■特別養護老人ホーム

安 立 荘  
高 浜 安 立 荘  
小 原 安 立

■障がい福祉サービス事業

授 産 所 高 浜 安 立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケアハウス高浜安立

■軽費老人ホーム

ケアハウス大阪安立

■養護老人ホーム

養護老人ホーム高浜安立

■自立援助ホーム

慈 泉 寮  
か り ん

■保 育 所

駒 方 保 育 園  
光 徳 保 育 園  
天 王 保 育 園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10 TEL(052)831-5171  
<http://www.syoutokukai.or.jp>

我が如く等しくて異なること無からしめんと欲す

## 学校法人 日本福祉大学

- 日本福祉大学大学院
- 日本福祉大学
- 日本福祉大学中央福祉専門学校
- 日本福祉大学附属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL(0569)87-2211  
<http://www.n-fukushi.ac.jp>



新春特集 講演抄へ6



幸しあ  
福わせ  
の  
源げん  
泉せん

## 忘れることも仏さまのおはからいです

どんなに悲しいことやつらいことでも、必ず時間が癒してくれると言います。悲しみや苦しみがいつしか「思い出」に変わっていくということですから。だんだんと記憶が薄らいでいって、その角がとれて丸くなって、嫌な部分が消えて、良い思い出だけが残るということです。

世の中には忘れなければいけないことがあります。それは「恨み・つらみ・怒り」です。これを抱いていると人間は幸せになれません。

悲しみや苦しみをいつまでも鮮明に覚えていなければならぬとしたら、とてもつらいことです。悲しみや苦しみがだんだん和らいで、思い出に変わっていくというのは、やはり諸仏善神のおはからいであろうと思います。

『法句経』の有名な言葉を改めてかみしめたいと思います。

「怒みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みをすててこそ息む。これは永遠の真理である」

## 「感謝」が本当の幸せへの道です

「山のあなたの空遠く　幸々住むと人のいう。ああ、われひとと尋めゆきて、涙さしぐみかえりきぬ。山のあなたになお遠く　幸々住むと人のいう」  
(ドイツの詩人、カール・ブッセ『山のあなた』)

「幸せをいくら遠くに求めても、求めれば求めるほど見つかりはしない。かえって遠ざかってしまう」ということです。

では、どうやって幸せを感じればよいのでしょうか。それは「感謝」をすることです。感謝の心が芽生ええると、その瞬間に「ああ、幸せはここにあったんだ」と気づくことができるのです。「ここにあった」というよりも「心の持ちようだった」という方が正しいかもしれません。

人は誰しも、与えられた環境があります。その中で決して不平不満を言わずに、感謝して最善の努力をすることが真の幸福への道です。どんな境遇にあっても、感謝と堪忍を忘れなければ幸福はそこにあります。

## 徳積み心地よさ

私達は徳の人を見ると、心が晴れやかになり、あのような人になりた  
い。少しでも近づきたい。と思うものです。

山口県周防大島町で行方不明になった2歳児を救出して、時の人となつたスーパーボランティアの尾畠春夫さんは正に徳の人だと思います。尾畠さんは幼児救出後、すぐに、西日本豪雨で被害を受けた広島県呉市でボランティア活動に参加されました。テレビで観たのですが、尾畠さんは現地で大人気で、住民の方々はもちろん、他のボランティアからも大歓迎を受けておられました。尾畠さんを見ていると観世音菩薩がこの娑婆世界に遊ぶが如く、本当に徳を積むことを楽しんでおられるように見えます。

新渡戸稲造博士が名著『修養』の中で次のように言っておられます。

「徳には名誉も黄金も及ばぬ保存力と快樂とがあるものと見ゆる。金ある者は、あるいは失敗して一夜にこれを失うことがある。人に嫉まれたり、

うらやまれたりすることもある。しかし、徳の人は火災に喪失するの憂いもなく、人に嫉まれることもない。むしろ、嫉む人を教化する力がある。そして、人の知らぬ所、知り得られぬ楽しみがある。暗夜も畏るることなく、朝起きて日光の輝けるを迎うれば、実に日光を心に反射し、雨が降っても風が吹いても、胸中は常に嬉嬉として、晴れた天のごとくである。到る所に樂地ある心地して、我々の味わうことのできぬ快樂がある。いわば他人の食うものと、別なるものを食うておるがごとき観がある」

新渡戸博士が尾畠さんのことを言っておられるような感じがいたします。



## 上機嫌で人生を変えましょう

フランスの哲学者、アランは「上機嫌療法」をすすめています。

「あらゆる不運や、とりわけつまらぬ事柄に対して、上機嫌にふるまう。不機嫌な人に出会ったら、これを好機と考え、できるかぎり上機嫌に対応する。これを繰り返すうちに、他人の不機嫌ばかりか自分自身の不機嫌に対しても免疫がついてくる」

アランはまた、上機嫌こそ他人への最大の贈り物だと言っています。

「上機嫌こそ、贈ったり、もらったりするべきものだろう。これこそ、世の人すべてを、そして何よりもまず贈り手を豊かにする真の礼儀である。

これこそ、交換によって増大する宝ものである。路上でも、電車の中でも、新聞を売っている売店でも、まきちらすことができる。そうしたからといって、微塵も失うものはあるまい。あなたがどこへ投げ捨てても、それは芽を出し、花を開くだろう」

私は「上機嫌療法」は幸運を開く鍵だと思います。「予祝」という言葉があります。予め祝うということですが、北九州の方では昔からある儀式だそうです。人生のどん底に落ちた時、「お祝いしようじゃないか」と言うそうです。「もう、これ以上落ちることはない。ここからは上がるしかない。これから良くなるんだ。先にお祝いしようじゃないか」と。そして、みんなで「これから良くなる。良くなる」と言い合って、宴会をしてお酒を飲み、先にお祝いをするのだそうです。これをやると、本当に良くなると思います。これはまぎれもなく開運の「上機嫌療法」です。

どんな試練の時にもぐつとこらえて上機嫌。これが本物の堪忍ですね。



## 神に呼ばれたシユバイツァー

アルベルト・シユバイツァーは、28歳の頃から孤児の世話や免囚保護事業などを試みましたが、なかなかこれだと思いう仕事に出会えませんでした。

ある日、新聞に「コンゴ医療伝道」の募集記事がありました。

「主の呼び掛けに対して『私が参ります』と、単純に答えられる男女を教会は必要としています」

シユバイツァーはこれを見て「模索は終わった」と言っています。この後、シユバイツァーは医学部に進み、生涯「医療伝道」の道を歩んだのです。「自分の仕事で世の中に貢献することは非常に大事です。しかし、もう一つ上のことを考えると、いつも直接に奉仕したい」という思いを持って、いることがもつと大事なのです」とシユバイツァーは言っています。

仕事のことを英語では「calling」（神に呼ばれる）と言います。我々も日々の仕事をその意識で行うべきかもしれせん。

## いの 祈りを込める

おかやま  
岡山に「わら」という民宿があります。その自然食料理を食べると、  
あらゆる病気が治ると評判だそうです。

ご主人の船越康弘さんは「食品の質を上げるのは作る人の想いであり、  
料理の質を上げるのは料理をする人の想いです。私は二十歳から今まで四  
十年間、一日も欠かさず料理を始める前にいつもこう言ってきました。

『天地のお恵みとこれを作られた方のご愛念を感謝して料理させていただけ  
きます。この食べ物が私達の体の中に入って、自他ともにお役に立ちます  
ように。ありがとうございます』と言います。

この言葉によって、想いによって、「わら」の料理はおいしくなり、特  
別な力を持つようになります。どんな物にも心は入ります。あらゆる仕事は、た  
だ物を作ったり売ったりするだけでなく、その中に善き祈り、心を込める  
ことが大切だと思えます。

## 人間はこの世に生まれてきたら、必ず役目がある

江戸時代に昌平坂学問所という幕府の学校がありました。ここは孔子の儒教を教える学校でした。孔子の生地である昌平郷にちなんで「昌平坂」と命名されました。「昌平黌」とも言われます。その学校の総長・佐藤一斎は随想録である『言志四録』の中で次のように述べています。

「人は真剣に考える必要がある。天はなぜ自分をこの世に生み出し、何の用をさせようとしているのか。自分はずでに天より生じたものであるから必ず天から命じられた役目がある。その役目を謹んで果たさなければ必ず天より罰を受けるであろう。このように省察すると、うかうかと生きるべきではないことがわかる」

人間はこの世に生まれてきたら、必ず役目がある。その役目を果たさなければいけない。そう考えると、うかうか生きているわけにはいかない。その通りだと思えます。

## 心を美しく

結婚式の前夜に花嫁のお母さんが花嫁に「結婚後の心得」を教えてくださいました。それを偶然、花婿のお父さんが立ち聞きしていました。その心得は「いつでも美しい着物を着ていなさい」「毎日、おいしいものを食べなさい」「絶えず鏡を見なさい」の三つでした。お父さんはびっくりして「こんな贅沢な嫁をもらっては大変だ」と思いました。

結婚式の後、お父さんはお嫁さんの行動をずっと観察していましたが、一向に贅沢をする様子もありません。「一体どういうことだろう」と思い尋ねるとお嫁さんは「母親に言われた『美しい着物』とは、『いつも洗濯をしてきれいな着物を着なさい』ということです。『おいしい食事』とは『一生懸命毎日働けば食べる物はいつもおいしい』ということです。『鏡を見なさい』というのは『いつも自分の行いを反省しなさい』ということです」と言いしました。お父さんはいたく感心をしたというお話です。

## 慈悲心というのは本当には本心に大切なものです

如来寿命品の中に次のような一節があります。「諸の有ゆる功德を修し、柔和質直なる者は、則ち皆我が身、此にあつて法を説くと見る」

ある新聞のコラムにあつた記事です。そのコラムを書いている女性編集者のお友達が鹿児島に住んでいて、もともとやり甲斐のある仕事があったが、一念発起して、就職してから十年たつて転職を決意しました。鹿児島から出て、リクルートスーツに身を包んで各地で就職活動をしました。

東京でのことです。ある日、面接の約束を取つて、その時間に遅れないように、彼女は急いでいました。すると道中、熱中症になり路上で倒れている男の人がいました。「大丈夫ですか」と声をかけ、一生懸命介抱して、救急車を呼び、一緒に病院まで行ったそうです。その男の人が言ったのです。

「あなたはその恰好を見ると、今、就職活動をしているのかね」

「そうなんです。実は面接に行く予定だったのですが、もう間に合いません。でもいいんです。あなたを助ける方が大事だと思っただけです」

「そうかそうか。すまなかつたな。もしよかつたらうちに来ないかね。私、社長なんだよ」

と、名刺をくれました。その名刺を見てびっくり。その日に面接に行く予定だった会社の社長さんでした。その後、会社に行くとその時の社長さんが「はい、採用」ということで、その女性は今、一生懸命、楽しくその会社で働いているということです。

# 鈴木孝信さん（山首上人さまご長男）得度式



山首上人さまのご長男、鈴木孝信さんの得度式が、十一月二十一日（水）午前十一時より本山本堂にて執り行われました。

孝信さんは平成六年生まれの二十四歳。高校時代はラグビー部に所属し、体幹だけでなく、精神力も鍛えられたとのこと。当時から数学や物理が好きだったこともあり、東京工業大学に進学。

理学院・地球惑星科学系に在籍され、地球深部から、大陸・海洋・大気・惑星・宇宙に至るまでの各領域を研究するかたわら、競技ダンス部の活動にも熱心に取り組まれ、大学4年次には全国大会で2位に輝くなど、まさに「文武両道」を絵に描いたような方です。

人生のモットーは「自分らしく生きる」という孝信さん。ご自身の転機について、数年前日蓮宗主催の海外ボランティア活動に参加され、カンボジアに赴いた時のことを語られました。小学校の校舎を修復する作業の間に、現地の子ども達と仲良くなり、カンボジアを離れる時には子ども達と泣いて別れを惜しんだのだとか。（後日、当時の主催者にお話をうかがうことができました。ボランティア・ツアーの参加者の中で孝信さんは子

ども達の一番の人気者だった。とのこと。記者は一連のお話から、児童養護施設・駒方寮の子ども達に囲まれる御開山上人のお姿と孝信さんが重なったような感覚になりました。

「この体験が心の琴線にふれ、その後モロツコやタイに一人旅に出かけ、異文化に生きる人々と交流する喜びを知りました。また、どんな考えをもった人でもコミュニケーションがとれるようになったことが、自分の成長につながりました」と、目を輝かせながら話してくれた孝信さん。若



者らしい姿勢が、とても頼もしく感じられました。約一時間の得度式が終わり、今後の抱負について次のように語られました。

「まだお寺や仏教のことはわからないことばかりで未熟ですが、法音寺の信者さんをはじめ、これまで自分を支えてくださった多くの方々のお力に少しでもなれるよう、勉学と修行に励んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします」

法号を「けんじやういんごうしやうにちしやう顛誠院廣修日孝」と申されます。顛修院日達上人の「顛」、廣宣院殿安立大法尼の「廣」、御開山・泰山院日進修学上人の「修」の字が入る法号に「身に余る立派な名前を頂戴いたしました」と孝信さん。その目に、法音寺の僧侶として先師の想いをつないでいこうという決意がみなぎっていました。

法音寺に縁を結ぶ者にとって、この上ない喜びとなりました。

## 御守・御札のご案内

御札等の祀り方は、御札の種類により異なりますので、お尋ねください。

古い御札等は、本山、または支院・布教所にてお預かりし、お焚き上げ供養をいたします。

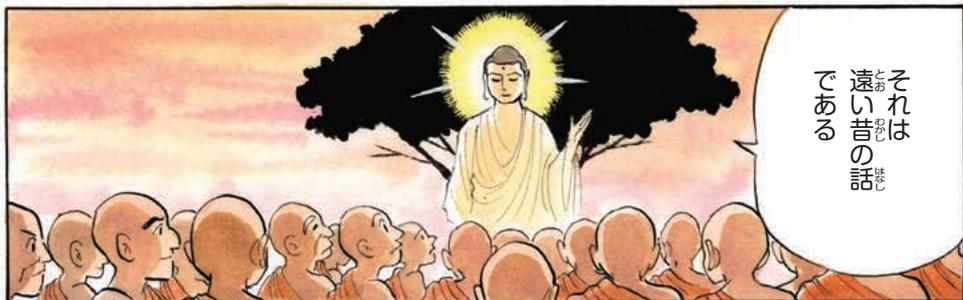


- |          |          |      |        |        |
|----------|----------|------|--------|--------|
| ①道中安全守   | ②安産守     | ③合格守 | ④當病緩和守 | ⑤當病平癒守 |
| ⑥方除守     | ⑦病氣平癒しき守 | ⑧盗難除 | ⑨災難除守  | ⑩守護守   |
| ⑪鬼門除守    | ⑫門札      | ⑬棟札  | ⑭祈禱修法  | ⑮黒札    |
| ⑯所願圓満大黒札 | ⑰海上守     |      |        |        |

檀 だん  
王 おう



それは  
遠い昔の話  
である

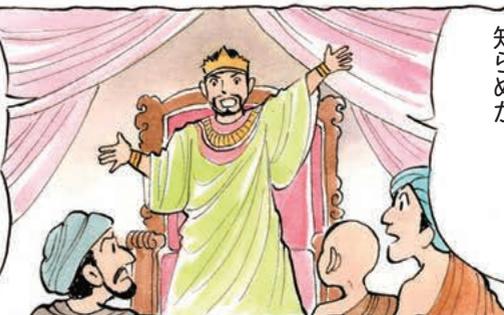


災害、悪い病の流行  
さらに日照り・干ばつが  
続き 作物は枯れはて  
多くの人々が死んで  
いった



その国の王「檀王」は  
国中の人々の苦しみを  
救おうと決心した

だれかこの世の人々の  
苦しみを救う教えを  
知らぬか



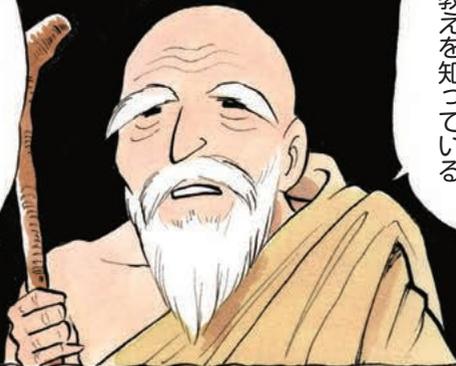
もし教えを聞かせて  
くれるならば 私は  
その人の召使いとなり  
どんな労役にも  
服す！  
そんな人をだれか  
知らぬか？

王様！  
阿私仙人という  
ものがまいって  
おります



私は  
「妙法蓮華経」という  
教えを知っている

私のいつけを守り  
従うならば教えて  
しんぜよう







あし訳  
ありません



なんだ  
まだ  
熟れてないぞ



なにを  
している！  
薪の中  
にいる  
虫を  
焼き  
殺す  
なんて  
殺生  
罪だぞ！



この師  
に仕え  
、教え  
を聞  
ける  
こと  
が  
私の  
喜び  
だ



これは  
世の  
人々  
を  
幸  
せに  
する  
ため  
の  
修  
行  
な  
のだ



そして  
その  
教え  
の  
尊  
さ  
を  
知  
り  
、  
私  
の  
心  
の  
中  
は  
喜  
び  
に  
満  
ち  
、  
心  
身  
の  
疲  
れ  
な  
ど  
なん  
で  
も  
な  
か  
つ  
た

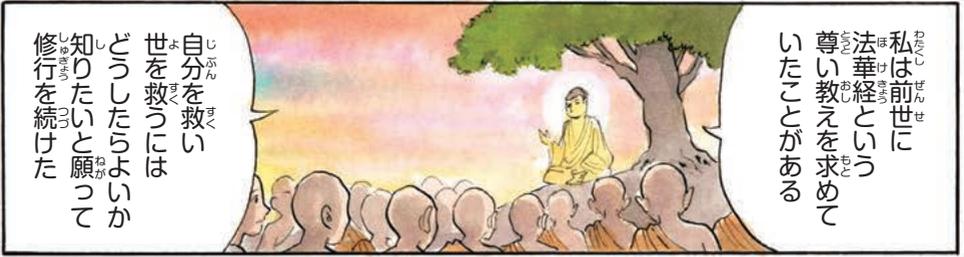


そして修行は  
さらに幾年も  
続き...



よつやく師から  
「妙法蓮華經」を  
説かれた





私は前世に  
法華経という  
尊い教えを求め  
ていたことがある

自分を救う  
世を救うには  
どうしたらよいか  
知りたいと願って  
修行を続けた



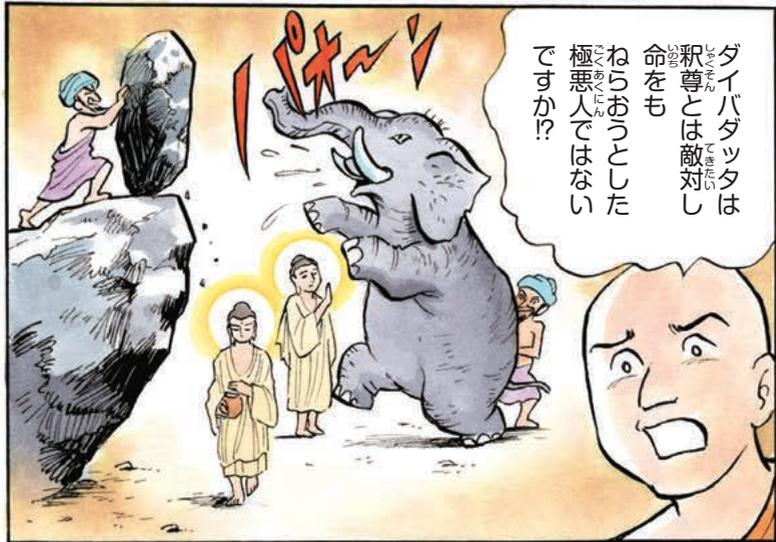
ああ そのとおり  
「檀主」とは  
過去世の私だ



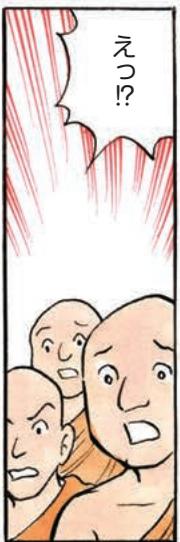
積尊…  
もはや その  
「檀主」という  
のは…



そして師の  
阿私仙人は  
今のダイバダッタ  
である



ダイバダッタは  
積尊とは敵対し  
命をも  
ねらおうとした  
極悪人ではない  
ですか!?



えっ!?

たしかにダイバタッタは  
私の仇のような者だが  
過去世において  
「妙法蓮華経」を  
教えてくださった  
師だったのだ

あなたに  
法を教えた  
因縁をもって  
私があなたの  
お相手を  
いたしましょう



われわれは自分の  
行く手をはばもつと  
する人を



くだらねえ説法  
してるじゃない

やっち  
まえ!!

「都合の悪い人」と  
排斥しがちだが…



何を  
するんだ!

よしなさい



刃物も砥石で研がなくては  
ならないように、自分を  
磨いてくれる相手が  
いなくてはならない

まだ  
あんな所で…  
うすきみ悪い  
僧だ

「都合の悪い」ように見える  
人こそ自分の修行を手伝い  
心を磨いてくれる師  
「善知識」なのだ



過去世においてダイバダッタは阿私仙人であり

その仙人の「善知識」の力によって

「妙法蓮華経」の教えを聞き

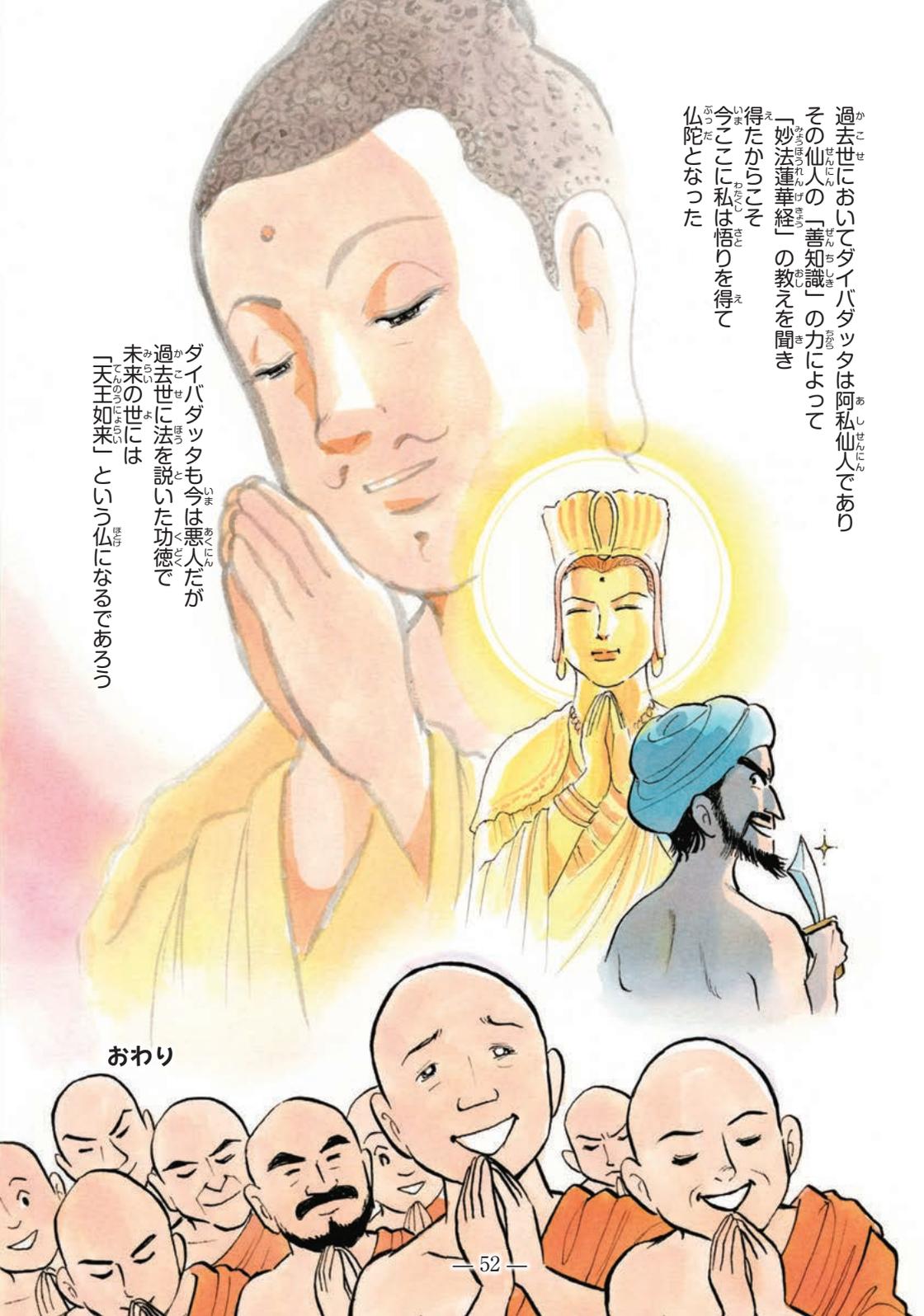
得たからこそ

今ここに私は悟りを得て

仏陀となった

ダイバダッタも今は悪人だが  
過去世に法を説いた功德で  
未来の世には

「天王如来」という仏になるのである



おわり

## 檀王にひいて

檀王は妙法蓮華經提婆達多品第十二に登場します。人々の本当の幸せを願った檀王が正法を求め、みずから王位を捨てて仙人に随い、修行をしたというお話が説かれています。

王は仙人のもとで修行するにあたり、錦の着物を脱ぎ捨てて、木の葉を綴り合わせた物を身に着け、時には地に伏して仙人の椅子となり、靴は脱いで素足になり、命令に随って水を汲むために山を下りると、足は破れて血が流れ、一杯の水を汲むにも大変な思いをしました。そして、ようやく水を汲んで仙人のもとに戻れば、「地神に断らずに汲んだ水は盗んだ水だ」と棒で殴られ、さらに、



檀王の画（身延山信行道場、講堂壁画）

木を切って燃料にすれば「薪の中には虫がいる。燃やして虫を焼き殺したのは殺生の罪である」と怒鳴られるという有様でした。それでも王は人々を助けたいという一念で仙人に随って修行を続けたのです。

そのような修行を何年も重ね、ようやく仙人から『妙法蓮華經』を説かれます。そして、

「あなたはきつと未来において、世界の人々を救うような働きをなさるでしょう。しかしどんな人でも、刃物に砥石が必要なように、あなたの相手になって磨く者がいなくてはなりません。あなたに妙法蓮華經を教えた因縁をもって、私がおあなたのお相手をいたしましょう」と言われたといいます。

悟りを得られた釈尊はおっしゃいました。

「爾の時の王とは、則ち我が身これなり。時の仙人とは今の提婆達多これなり。提婆達多が善知識に由るが故に、我をして六波羅蜜・慈悲喜捨・三十二相・八十種好・紫磨金色・十力・四無所畏・四摂法・十八不共・神通道力を具足せしめたり。等正覚を成じて、広く衆生を度すること、皆提婆達多が善知識に因るが故なり。

り」（提婆達多品）

（前の世の王とはわが身であり、その時の師匠は今の提婆達多であったのだ。提婆達多が善知識になってくれたお陰で、私は六波羅蜜の行ができ、慈悲喜捨という他者に対する深い心を身につけ、三十二種の吉相や八十種の福相を得、黄金に輝く身となり、すべての物事を正しく見る十種の智力と、法を説くのに何も恐れず、迷いがなくなり、衆生を導く四つの方法と、仏だけが持つ十八の特質と、神通力を身につけることができた。こうして仏の悟りを成就して、衆生を救えるのも、すべて提婆達多が善知識になってくれたお陰なのだ）

一生涯敵対し、命すら奪おうとした提婆達多は、過去世において妙法蓮華経を教えてくださいました先生だったのです。自分を苦しめる者は、自分の修行を手伝ってくれる『善知識』だといつのです。

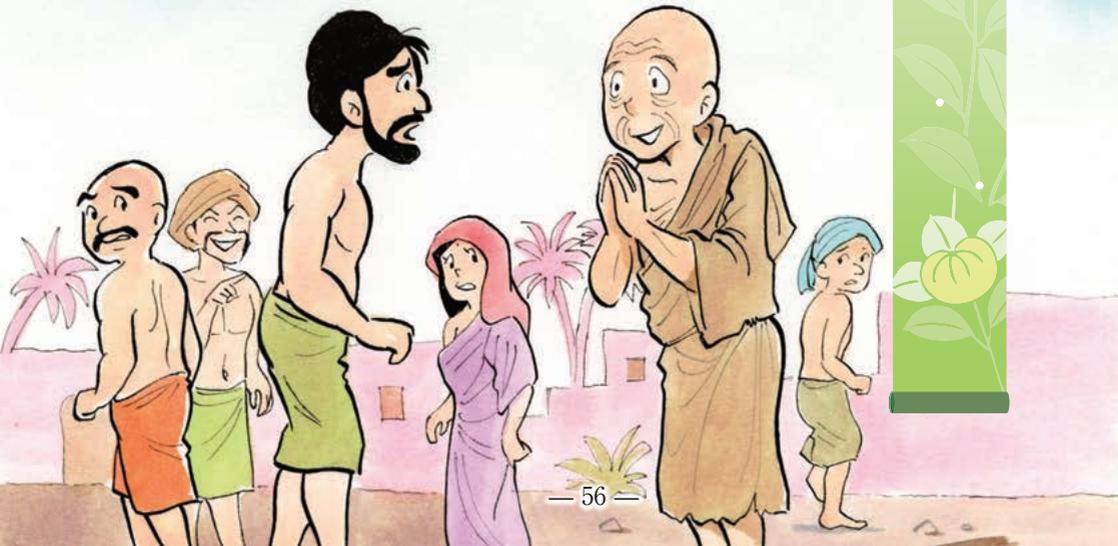
私達は、自分に都合の悪い人を避けがちですが、「都合の悪い」ように見える人こそ、実は自分の心を磨いてくれる先生『善知識』なのです。

## 合掌礼拝の心

「人の一身は頭を以て最上となし、足を以て最下となす。頭を以て足を礼するは恭敬の至りなり」（大智度論）

お釈迦さまの前生の物語として、常不軽菩薩のことが法華経（常不軽菩薩品第二十）に説かれています。

常不軽菩薩はどのような地位や身分の人にも、分け隔てなく、「あなたは仏になる人です」と合掌礼拝して歩かれました。時には心ない人達から悪口を言われ、石



を投げられ、杖で打たれても、常不軽菩薩は決して怒ることなく、「あなたは仏になる人です」と言い続けました。そのようにして生涯をかけて礼拝行を貫き通し、常不軽菩薩は仏の境地まで到達されたのです。

宮沢賢治の詩・『雨ニモマケズ』の最後にこうあります。

「ミンナニ デクノボートヨバレ

ホメラレモセズ クニモサレズ

サウイフモノニ ワタシハ ナリタイ」

(みんなに木偶の坊と呼ばれ ほめられもせず

苦にもされず そういう者に 私はなりたい)

この「デクノボー」は常不軽菩薩がモデルだったとい

う説があります。



法華經の教えは、誰もが仏になれる」というもの。

それはどの人にも「仏性」があるからです。自分が「仏性」を持っているということは、相手もまた「仏性」を持っているということになります。自分を重んじるならば、相手も重んじなければなりません。地位の高い人の前では頭を下げ、低い人や貧しい人の前では相手を軽く見がちな人は、相手に具わる「仏性」を見落としています。

また、周囲の人々のお陰で今の自分があることを意識しなければなりません。さらに私達の世界は、人間だけで構成されているわけではありません。そうしたものに「ありがたい」という感謝の心を持ち、恩に報いる働きをしていくことを忘れてはなりません。



手を合わせて合掌する時、

すべての命に対する「尊敬」と「感謝」の心を込めましょう。

そして「我」にとらわれる自分の心を立て直しましよう。

仏前で合掌する時、仏さまもまた、私達に対して合掌されています。それは私達の「仏性」に対して手を合わせてくださいっているのです。

その「仏性」を開かせるために、日々の生活の中で菩薩行を行いましよう。

それが合掌する者の心です。



# 新刊 『聖教』 から見る 広宣流布と文書布教

広宣流布とは、正法である法華経を広く世間に宣(の)べ、布教することです。そのことは、今、法華経に縁を結ぶ私達一人ひとりの責務と教えられるのですが、「法華経を世間の人に説くことなんてこと…」とたじろぐ方もおられるかもしれません。でも、ご自分の信仰によって得られた喜び、安心を人にお話しすることなら、そんなにむずかしいことではないのではないでしょうか。

その昔、仏教感化救済会では「法華経講習会」が開催されていましたが、始祖杉山先生・安立大法尼はその受講者に、このようなことをおっしゃいました。

「皆さんが法華経の講習を受けられることは大変うれしく思います。皆さんにお願いがあります。まだ講習を受けられない方々に、皆さんが法華経を聞か

れて『うれしかったこと』をお話ししてあげてください。大きな功德になります」つまり、それが「広宣流布することなのだ」とおっしゃるのです。そして、このみ教えを受けて御開山上人は、

「まだ法華経を知らない人が聞いて、なるほど、法華経の信仰をせねばならない」と思うような、信仰の手引となるようなことを書いて送ってください。

『書くのは苦手だ』という人は、誰か書ける人に書いてもらってください。それらをまとめて、一冊の本にしたいと思っています」とおっしゃいました。

そうして御開山上人は、安立大法尼のみ教えを広く世間に伝えるため『月刊・出世の葉』という小冊子を作り、流布に務められました。今の『月刊・法音』の前身と言ってもいいでしょう。これがいわゆる「文書布教」です。

法音寺の文書布教の第一は、大正12年の『世界の鏡』発行です。かの大災害・関東大震災発生年の年で、これを当時の篤信御信徒は自費で何冊か買い求め、自身の徳積み・罪障消滅を願って広宣流布に務められました。寒風吹きすさぶ街頭に立って「どうかこれをお読みください」と、道行く人々に配られたとも聞いております。いわば「文書布教Ⅱ施本」は、法音寺教団伝統の広宣流布活動と言っているでしょう。

ところでそのもとは、安立大法尼、御開山上人のお言葉でもわかるように、人々の「体験発表」に他なりません。〃得られた信仰の喜びを人に話し、それをまとめて本にして布施する〃。このことこそ広宣流布の要なのです。

さて、經典・法華経、日蓮聖人遺文、いずれもなかなか難解なご文章です。また一見、奇想天外と思われるような記述もありますが、それらはいずれも、絵空事などでは決してありません。すべては、お釈迦さまの、そして日蓮聖人の、法華経を「如説

修行」された上の「体験談」に他なりません。さらに、安立大法尼、宗玄大徳、御開山上人、日達上人の述べておられますことも同じです。先師の方々が如説修行して得られた体験を、私達に書き残してくださった体験談なのです。

そのような心で接してゆくと、難解なご文章もゆるやかに、やわらかく受け取ることができるように思います。

昨年初夏、山首上人さまにより『聖教Ⅱ聖の教え』が普く施されました。お釈迦さま、日蓮聖人、安立大法尼、宗玄大徳、御開山上人、日達上人の「妙法如説修行体験談特集」とでも申せましょうか、いずれか必ず無上道への「無料パス」となるに違いありません。数々の天変地異に見舞われた近年を省みる時、まさに時宜を得た浄業と申せましょう。

日達上人は常日頃「法音寺は正統な仏教教団である」と申されていました。そのお心の真意は、お釈迦さまから当代にまでつながるゆるぎない信仰体制にあるという確信にあると思うのであります。

# 大乗山法音寺の文書布教

## 主要図書目録

※印「聖教」引用図書

### 法音寺刊

- 始祖・御法話集 頒価6000円
- 無上道―始祖杉山先生のご生涯を訪ねて 頒価5000円
- 安立大法尼の教え 頒価6000円
- 安立行―始祖・杉山辰子先生物語(上) 頒価8000円
- 御生誕から仏教化救済会設立迄 頒価8000円
- 安立行―始祖・杉山辰子先生物語(下) 頒価8000円
- 会の組織化から御遷化迄 頒価8000円
- 絵本・わたしは たいよう  
―すぎやま たつこ ものがたり― 頒価10000円
- 村上先生御法話集 第一巻 頒価6000円
- 村上先生御法話集 第二巻 頒価6000円
- 二祖・村上齋先生 頒価8000円
- 現代生活の指針 頒価10000円
- 続・現代生活の指針 頒価10000円
- 写真集・泰山 頒価8000円
- 御開山上人伝・如我等無異 頒価10000円
- 御開山上人伝・泰山 第一話～第五話
- 第一話 御生誕から青少年訓育迄
- 第二話 安立大法尼御遷化から終戦迄
- 第三話 戦後の復興から大荒行御成満迄
- 第四話 福祉教育・日本福祉大学の設立
- 第五話 縁山寺院・教会・結社の設立から御遷化迄 頒価各巻8000円
- 妙法蓮華経のお話 頒価6000円
- 御開山上人の実践とその時代 頒価8000円
- 御開山上人御法話集 頒価8000円
- 御開山上人御法話集(二) 頒価8000円
- 御開山上人御遺稿集 頒価8000円
- 幸せを育てる教育マンガ(法音寺複製)  
菩薩行の話 因縁の話 八正道の話  
十界の話 お彼岸のはなし 功德の話 頒価各6000円
- 十王の話 頒価10000円
- 大白牛車(1) 日達上人御講演抄 頒価4000円
- 大白牛車(2) 日達上人御講演抄 頒価4000円
- 大白牛車(3) 日達上人御講演 頒価5000円
- 弘教の三軌と六波羅蜜 頒価5000円
- 大白牛車(4) 日達上人御講演 頒価5000円
- 南無妙法蓮華経のこと 頒価10000円
- 大白牛車(5・6・7) 日達上人御講演抄 頒価10000円
- 大白牛車(8) 日達上人御教化抄・御講演抄 頒価14000円
- 一日一言

大白牛車(9) 日達上人御講演

妙法・如来寿量品のお話 頒価5000円

※法音寺刊の図書は頒価はすべて税込。

## 中央法規出版刊

福祉を築く ―鈴木修学の信仰と福祉―

定価3200円(税別)

まんが・法音寺物語(上・中・下)

(上) 安立大法尼の時代

(中) 宗玄大徳の時代

(下) 御開山上人の時代

定価各巻1000円(税別)

日本の福祉を築いたお坊さん

―日本福祉大学を創った鈴木修学上人の物語―

定価800円(税別)

仏教聖語の解説 定価1800円(税込)

道徳と宗教 定価1000円(税込)

幸せを育てる教育マンガ

法華経七喻の話 法華経と日蓮さま

日蓮さまの教え 他

定価各600円(税込)

## 仏教タイムス社刊

大乘山法音寺の信仰と福祉

定価3200円(税別)

## すずき出版刊

幸せを育てる漫画『ひまわり』

定価1000円(税別)

## 山喜房佛書林刊

鈴木修学先生の南無妙法蓮華経

定価1600円(税別)

大乘山法音寺三徳開教百年史

(1) 安立大法尼の時代

定価4000円(税別)

(2) 宗玄大徳の時代

定価4000円(税別)

(3) 御開山上人の時代

定価6000円(税別)

(4) 日達上人の時代

定価7000円(税別)

別巻 仏教感化救済会の信仰

定価3000円(税別)

聖教(聖の教え) 定価4000円(税別)

## 青山書院刊

妙法蓮華経略義 定価6000円(税込)

無量義経略義 定価2000円(税込)

仏説観普賢菩薩行法経略義

定価2000円(税込)

撰法華経略義 定価700円(税込)

お問い合わせは、

法音寺事務局もしくは各支院・布教所に。

# 福祉に 生きる



社会福祉法人 昭徳会  
保育所 **天王保育園の実践**

『日本の福祉を築いたお坊さん』に学ぶ。  
**鈴木修学先生が築き上げた福祉の  
新たな未来を切り開くために…**

「ほめて育てる」を実践したい

天王保育園 保育士 内山 穂南

日本において福祉に対する考えや法律ができる前から活動を行い、ハンセン病の患者さんや罪を犯した少年、虐待を受けた子ども、震災孤児、知的障がい児らの介護・養護・教育に取り組み、福祉事業の拡充・発展に一生を捧げた修学先生の生涯をたどることで、人間のあり方を考えると筆者は述べている。私も修学先生の生涯を学ぶことで社会福祉に携わる仕事をする上で、また、現代社会に生きる人間のあり方について考えていきたいと思う。

若くして成功を手にした修学先生が人生の意味を考えるようになったのはなぜだろうと思った。人が羨む

ような成功やせいたくな暮らしを手にしても、それは表面的な物で、内面は満たされていないかったのではないかと思った。そんな時に出会った杉山先生の言葉に修学先生と同様、私も眼を丸くしてしまった。

「あなたは、自分の正体がわかっていきますか」

自分の正体とは一体どういうことなのだろう。正体を見つけることが人生なのだろうか疑問に思った。しかし、その後「役割」という言葉があり、そこから正体とは自分にしかできない役割を見つけて行うことで構築されるのではないかと考えた。修学先生が杉山先生から教えを学び、自らも説いていく中で、言葉が力を持っているのではないかと感じた。修学先生が仏教感化救済会へ入会し、ハンセン病療養所で患者さんの介護と施設の運営にあたって得た三つの教訓や、臥竜山の農業指導で得た「苦労をともし、真心をもつて導けば、必ず人の心を動かすことができる」という確信、育児院での「ほめて育てる」指導法など、修学先生が自分の正体を見つけるには十分すぎると思った。また、私が修学先生の経験の中で自分も大切にしたいと思ったのは、「ほめて育てる」ということだ。法

華経の教えである、人々を助ける心を育てると同様に、育てるには叱って伝えるのではなく、ほめることによって伝えた方が気持ちも晴れやかに受け止めることができると感じ、実践したいと思った。

社会福祉の仕事に携わる上で、私はこの本から学んだことを大切にしていきたいと思う。ただ自分の中で考えて行動していくのではなく、伝えていくこともそうだ。また、修学先生の教えの中で子ども達との関わりの中で、叱るのではなく、その前に長所を見つけてほめる。ほめて育てること、善い言葉を使って友達を尊重するように指導することを関わりの中で大切にしていきたいと思った。

また、修学先生の生涯は多くの人々を支え、支えられてもきた。支えられているのは自分達の周り、自分にも共通して言えることであると思う。困難を幾度となく乗り越えるには、支えは必要不可欠である。この本を読み、社会福祉に携わる仕事をしていく上で誰かの支えとなる人物になりたいと強く思った。また、現代社会を生きていく上で、自らの目標を持ち、行動していこうと思う。

## 自分の喜びにつながるよう他人のために尽くします

天王保育園 保育士 海原 佳奈恵

鈴木修学先生の生い立ちを読んでいく中で、めぐり合わせや先生の大切にしていたことなどを学ぶことができました。修学先生は若くして成功を手に入れましたが、ぜいたくな暮らしも心を満たすものではなく、改めて自分の幸せとは何かを考えたとというのが、まず私の中にはない考えであり、興味を持ちました。この本の中に特に印象に残っている部分が三つあります。

一つ目は、「困っている人を助け、法華経を信仰する善人をつくることです。自分のできることで立場を通し、仕事を通して、人の喜びことをして導くのです」という部分です。修学先生の親戚が中風で寝たきりの状態で、医者からは見離されていました。しかし、杉山先生から聞いた法華経で、毎日教えを説き、病気を治していく一節です。ただやみくもにお題目を唱え、法華経の話をするのではなく、これまでの行いを見直して、自分は相手のために何ができるのか、相手は何を必要としているのかを考え、行動することが大切な

のだと思いました。保育の現場において、すべての子ども達へ同じ接し方をするのではなく、子ども主体になるように自分ができることを一人ひとりに合わせて接していくようにしたいです。

二つ目は、「どんな子でも、ほめてやると必ず良い子になります」という部分です。藤森に育児院をつくり、そこで保護された子どもの養育をしている修学先生が職員にかけた言葉です。さらに、子どもをほめてやるためには、子どもの一日の生活を温かく、そしてしっかりと見守る姿勢が大切であるとおっしゃっています。いつも同じような単純なほめ言葉ばかりでなく、具体的な部分を加えられるように子ども達と関わっていきたいです。

三つ目は、「自分を中心として食れば、他人のためにならず、自分のためにならず、悩みと苦しみを生み出します。それは良くないことだと悟り、心を改め、真心を施し、善いことをほめ、善行を育てれば、それは他人のためとなり、喜びとなり、功德となるのです」という言葉です。この道理をよく知って実行することが菩薩行であると記述してありますが、宗教的信仰に

限らず、大切なことであると思います。自己中心的な考えは、他人のためにならず、それはまた自分のためにはならないということは、その通りであると思います。他人のために尽くすことは、自分に返ってきて、人の喜びが自分の喜びにつながると思います。仕事だけでなく、私生活においてもこの言葉を大切にして、自分の心を豊かにし、心身の健康を保っていきたいです。

## 困難な状況も前向きに取り組みたい

天王保育園 保育士 近藤 千佳

私は『日本の福祉を築いたお坊さん』を読んで学んだことを三つに分けて述べたいと思う。(一)「ほめて育てる」指導法、(二)子ども一人ひとりの個性に合った成長の支援、(三)「どうしたらできるのか」に焦点を当て、前向きに取り組む姿勢についても考えてみたい。

まず、(一)「ほめて育てる」指導法について。他人のうまくできないこと、良くない行いばかりに目を

向けていると、その人に対する意識や発する言葉は注意の言葉ばかりになっていく。それが続くと、言われた人は「自分は悪いところばかりなんだ」と感じるようになり、自分を受け入れてもらえる安心感や、物事に対するやる気も失っていくだろう。しかし、修学先生が育児院で出会った正男という少年にしたように、その人の良いところに目を向け、良い行いを具体的にほめていくことで、自分のことを見て、受け入れてくれる人がいるという安心感が信頼関係を築くことにつながる。いけないことや直した方がよいことをした時には、それをきちんと伝えることも大切だが、それ以上はその人の良いところやできることを見つけてほめることで、それがより良い関係を築いていくことにつながると思う。

次に(二)子ども一人ひとりの個性に合った成長を支援することについて。人は、一人として全く同じ価値観や、性格を持った人はいない。一人ひとりが違うから、この世界はより豊かに、おもしろいものになっていく。だからこそ、子どもの持つ個性を大切にし、伸ばしていくことや、一人ひとりの成長の速度に沿っ

た支援ができるようになりたい。そのために、修学先生がしていたように、子ども達の様子をじっくりと観察し、子どもの変化に気づき、その時の状況に合った支援をできるようにしていきたい。

最後に(三)「どうしたらできるのか」に焦点を当て、前向きに取り組む姿勢について考察した。修学先生は、困難だと思える状況になっても「どうしたら良い方向に向かっていくのか」「どうしたら達成するることができるのか」に目を向けて、行動に移していった。そうしたことで、困難だと思われる状況でも、どこからか助けの手が差し伸べられ、どんどん好転させていった。「今こういう状況だからできない」ではなく、「今こういう状態だけど、できることは何か」「今の状態だからこそできることは何か」に目を向けて、前向きに取り組む姿勢を持ち続けていきたい。

## 温かい支援をしていきたい

天王保育園 業務員 村田 楓

「今日は、良かったことだけを探してほめてあげてく

ださい。それが一番良い指導法なのです」

この言葉を読んで、ハッとしました。私は今まで「ほめる」指導法ができていただろうか？叱ってはいけないとわかっていても、できていなかったと反省しました。一緒に遊んでいる時に、甥が物を投げたり、人を叩いたりしたので思わず叱ってしまいました。

「どんなに悪いことをした子どもでも、決して体罰を加えてはなりません。今までの経験の中で、そういうことで良くなった子は一人もいません。いいですか。どんな子どもでも、ほめてやると必ず良い子になります」

この言葉の通り、決して大人を信用せず、施設の職員の指示に従おうとしなかった少年が自ら庭の掃除をするまでになったのです。叱らなくても、ほめてあげれば良い子になるのだと記されていました。今後、甥だけでなく、保育園での仕事を通して、多くの子ども達と接することになるので、小さなことでもほめてあげることを忘れずに子ども達と接していきたいと考えました。

また、修学先生の言葉の中で、もう一つ印象に残っ

た一節があります。

「叱ることを避け、子どもの良いところを早く見つけてほめる。叱る前にほめ、ほめた後で、教える。この順番を忘れないこと」

多くの人は、人と接する上で、良いところを見つけないより、悪いところやダメなところを見つけてしまうことの方が多いと思います。この言葉を見て、私は今後、悪いところやダメなところを見つけないよりも、良いところを見つけれられるような人になれるよう努力して、保育園で子ども達と関わっていく上で、「叱る前にほめ、ほめた後で教える」ことができる職員になりたいと思います。

また、この本の最後に記されている、「私達昭徳会は、不遇な子ども達も、障がいを持つ子ども達も、今はまだ障がいを持たない人々も、皆同じく尊い生命を有しており、仏さまからお預かりした仏さまの子と考えます。一切の差別なく、真心をもってお世話をさせ

ていただくよう、と考えています」という言葉を私自身も常に持ち、昭徳会の掲げる基本方針、(一、一人ひとりに思いやりの心をもって接します。二、一人ひとりを尊重し、その人に合った支援・援助をします。三、一人ひとりを大切に、真心で接します。四、すべての人の幸福をめざし、たゆみなく援助技術の向上に努めます。五、お互いに助け合い、よりよい生活ができるよう努めます)に従って、私も温かい支援をしていきたいと改めて感じました。

#### 天王保育園

- 愛知県みよし市三好町天王51-20
- 定員160名 ●職員 正職員24名、パート職員14名
- 保育士(児童福祉分野) 児童福祉施設において児童の保育を行う者。保育士の資格が必要。
- 業務員 入所児の給食の調理を担当。

※本稿は平成30年7月にいただきました。(掲載順不同)

### 『日本の福祉を築いたお坊さん』 日本福祉大学を創った鈴木修学上人の物語

星野貞一郎著・中央法規出版・新書版・168頁・800円(税別) 本書の著者印税のすべては「あしなが育英会」に寄付されています。

# 選ばれる保育園づくりめざして



写真提供・昭徳会

## 保育所・天王保育園 ～魅力ある園づくりに取り組む～

平成27年4月に始まった「子ども子育て支援制度」により、保護者が保育園を選ぶ時代となり、待機児童削減のため全国各地で保育所等が次々と設立されています。その一方で、平成29年を頂点に31年以降、少子化の影響により子ども数が減少することが内閣府の調査で明らかとなっています。

また、平成30年度から「新保育所保育指針」が施行され、保育園に求められる責任と期待はさらに大きいものとなります。そこで選ばれる保育園づくりを行うことが必要と考え、平成27年度から3年間、魅力ある園づくりに取り組んできました。

第一弾は、他園との違いを作ることに着目し、今まで市と同じものであった制服を変更すること、卒業してから懐かしく親しんでもらえる保育園歌を作成すること、職員の得意なことを保育に活かすことに取り組みました。園歌の題名「手と手と手」は、園児、保護者、職員の手を表したものです。手に手を取り合っ  
て絆を育むことの大切さが歌詞には入っています。職員の資質向上では、一人ひとりの得手不得手を把握するため、「自分振り返りアンケート」を実施し、苦

手なことは研修や先輩の助言等で補い、得意なことは保育に積極的に取り入れられました。運動が得意な職員には、朝の体操を考えてもらい、運動会で来賓、保護者に披露したところ、評判も良く成果を実感しました。園歌もピアノが得意な職員が作曲しています。

第二弾では、園の良さを地域の方々に知っていただき、地域に根づいた保育園づくりをめぐりました。

園の良さを知っていたただくためには、職員自身が園の良さや他の園との違いを伝えられなければいけません。そこで、職員が園の魅力をしっかりと認識し、地域の方々にわかりやすく伝えるため、「論理的思考力向上研修」を受けることにしました。話し方の要点や説得力のある説明の仕方など会話の手法を学び、自分の考えをまとめて話すことができるようになりました。

また、自然豊かで素敵な環境を地域の方々にも知っていたただくために、子ども達を感じたり発見したりしたことや危険箇所などをまとめた「散歩マップ」を作り、地域の方々に配布しました。

第三弾は、園最大の魅力でもある「給食・おやつ・食育」に目を向け、三つの新たな取り組みを開始しま

した。さまざまな食材にふれるでは、いつもとは違う味つけや調理法、食材にすることを目的に日本全国の郷土料理を取り入れたり、食材さわって当ててみようクイズを定期的に開催したりしました。体験するでは、年長クラスが年に9回訪問している安立荘に依頼し、昔のおやつ「こうせん」を一緒に作っていた。だいたり、園でかき氷や焼き芋などに挑戦しました。

保護者や地域に対しては毎月発行している給食だよりに、子ども達の給食時の様子や衛生面で気をつけていること、給食室の様子などを紹介するほか献立集を作成し、各家庭に配布しました。地域の方々にも、保育園で行っている調理の仕方や味つけを参考にしていただけたらと、親子ルームに来た方にも調理法を配布しました。また、ホームページに子育て相談のページを開設し、食に関する相談も行っています。

私達が3年間行ってきた活動は小さな一歩にすぎませんが、子ども達の将来に向け、保育士・調理員、すべての職員が、これからも連携・協力しながら、積極的に魅力ある園づくりに取り組んでいきたいと思えます。

天王保育園 課長（主任保育士） 伊藤みどり

# 日本福祉大学中央福祉専門学校開校30周年

## 日本福祉大学中央福祉専門学校



写真提供・日本福祉大学中央福祉専門学校

平成元年4月に開校し、平成とともに歩んできた日本福祉大学中央福祉専門学校（名古屋市）は、今年30周年を迎えます。介護福祉士・社会福祉士・言語聴覚士の資格取得をめざし、18歳から社会人まで、昼間部・夜間部・通信課程とさまざまな形態で、現在約400人が学んでいます。高い国家試験合格率と就職実績を誇り、大学と連携した歴史のある福祉の専門学校として、評価をいただいております。

しかし、介護・福祉分野の人材不足は質・量の両面で深刻で、需要はますます高まるのに対し、若い世代では、介護・福祉を学びたい、仕事に就きたいという意欲ある層が圧倒的に少ないという、大きな矛盾を抱えています。本校でも入学者の確保は、ここ数年最大の課題です。

一方で「人生100年時代」と言われるようになり、介護・福祉の現場に転職したいと志を持つ、社会人や元気な高齢者が増えています。また、日本式の介護を学びたいという海外からの需要の高まりや外国人労働者の受け入れ、介護ロボットなどAI時代に対応した介護・福祉のあり方

など、これまでにない課題への対応が迫られています。

そのためにも、これからの人材確保と質の向上のためには、教育の場と働く場がともに連携して、「いつでも・いつからでも学びやすく、就職した後も一人ひとりの成長をサポートする」環境を、早急に整えていく必要があります。

その視点に立つて、本校でも30周年を迎えるにあたって教育改革に取り組んでおり、そのいくつかをご紹介します。まずは、大学との教育連携の強化です。来年度より介護福祉士科に「大学編入学コース」を設置します。日本福祉大学へ編入した学生は、これまでも多数おりますが、違いは、コース在籍中に大学の科目も一部学ぶことができ、編入後に単位認定を行うなど、専門学校での勉強と合わせて、大学編入を前提とした学びの支援を強化します。

次に、外国人留学生に対応した教育プログラムの開発です。先日、経済連携協定にもとづくインドネシアからの介護福祉士候補生との交流会（写真）が、本校で開催されました。もうすぐ研修が終了し全国各地の介護施設での就労が始まる候補生と、国家試験、就職を控えている本校2年生は、目標が同じ介護福祉士ということですぐに意気投合。介護についてはもちろん、日本やインドネシアの生活や文化などについても話題が広がり、大いに盛り上がりました。今年度初めての留学生を1名受け入れましたが、来年から

はその数を増やして外国人の介護職養成の手法を蓄積し、外国人介護教育に関する研修カリキュラムの開発、フォローアップ研修の開発等に取り組んでいきます。

最後に、卒業教育や現任者教育、退職後の教育等、学び直しと言われる「リカレント教育プログラム」の充実です。先日開催された言語聴覚士科の「卒業教育特別講演会」では、専門職として学び続け活躍する姿に、在校生も卒業生も大きな刺激を受けていました。また、来年度より本校の学科・課程はすべて「専門実践教育訓練給付金」の対象となり、資格取得を希望する社会人に対して、いっそう学びやすい環境となります。

今後は、資格取得を希望する前段階や、取得後専門職としてさらに成長を希望する段階など、対象を広げるとともに、各段階に応じたプログラムの開発に、大学院・大学や社会福祉総合研修センターとも連携して取り組んでいきます。

これからも、専門職養成機関として多くの方から支持され、本校での学びが、現場を変え、支援を必要とする人の幸せを築き、学ぶ本人の人生も豊かにしていく、「幸せの循環の要の存在」と言われる学校になれるよう、頑張っています。

日本福祉大学中央福祉専門学校事務室長 刈田 芽生

幸せの種まき 感謝と親切

笑顔でも言葉でも

自分のできることで

徳を積み重ねましょう

小さなことでも積み重ねてゆけば

大きな徳となります。

大乗山 法音寺

## 編集後記

「一年の計は元旦にあり」と言います。「三本の矢」で有名な毛利元就が長男へ書いた手紙に「一年の計は春にあり 一月の計は朔(ついたち)にあり 一日の計は鶏鳴にあり(一年の計画は年初めに、その月の計画は月初めに、その日の計画は朝に立てるように)」と書いたのが由来という説があります。

「今年が良い年にしよう」とお正月に目標を立てるものの、長続きせず達成できないことも多いもの。その場合、計画を長期、中期、短期と分け、最終的には「今日は〇〇をする」と考え実行すると、少しずつ目標に向かって前進すると言います。正に「日々小事を積み重ねる」とことと「今日一日を大切に過ごす」ことが重要なですね。

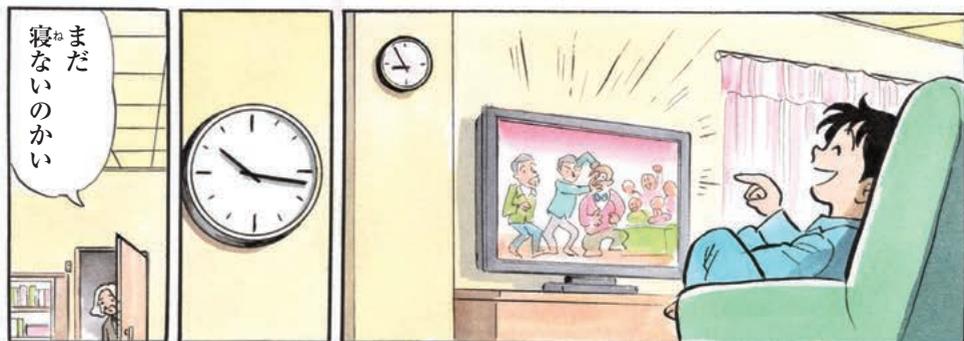
さて、今月は読者の皆さまに「施本」の意味を今一度ご確認いただくため「『聖教』から見る広宣流布と文書布教について」(60頁)という記事を掲載いたしました。お寺で無料配布されるのは、山首上人さまが施してくださったもの。本来の「施本」は自分達が購入して友人や知人に施すものです。年の初めにあたり、読者の皆さまは、伝統的に先輩ご信徒のなされてきた「徳積み」に学び、法事などの機会に、ご親戚にお寺の本を施すことから始めてみてはいかがでしょうか。いい運命を引き寄せてくれるかもしれませんよ。

# ありがとう

竹中 淳











放課後  
先生とお話  
しようね

あちやあ



ランドセルは？

？



えんぴつと  
消しゴム！  
ノート使いかけ  
だけで使って！

はい！  
蓮くん



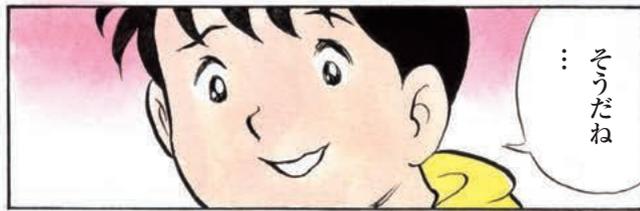
いつも  
ありがとう…

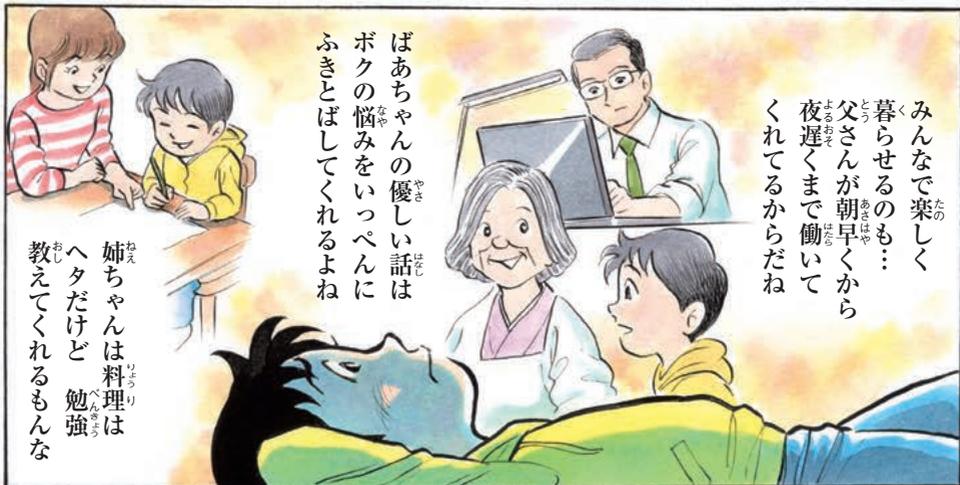
ボクのとまりが  
ひろみちゃん  
で本当によかったよ



きょう  
今日は一日  
たいへんだっ  
たんだよ  
ばあちゃん…







みんなで楽しく  
暮らせるのも：  
父さんが朝早くから  
夜遅くまで働いて  
くれてるからだね

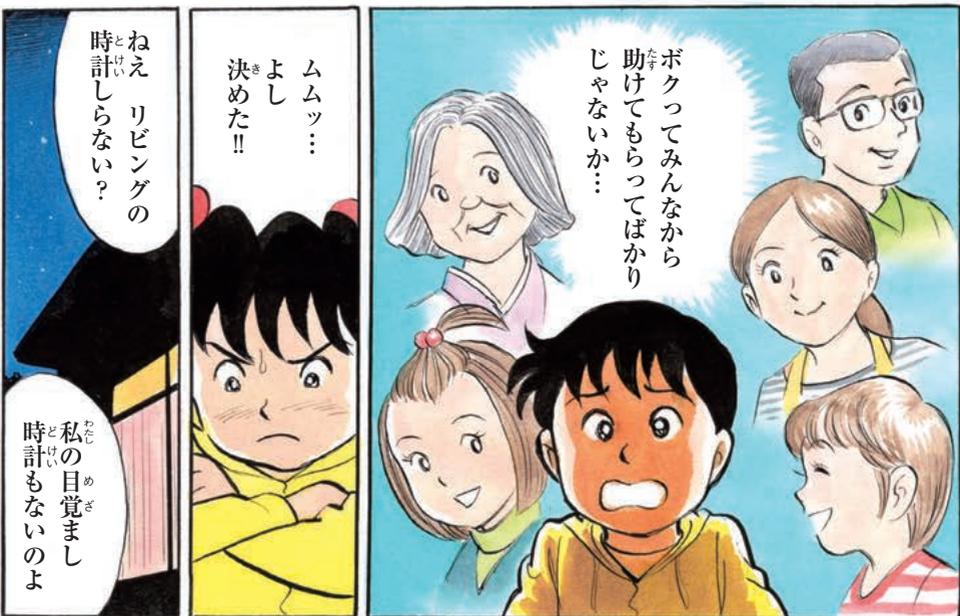
ばあちゃんの優しい話は  
ボクの悩みをいっぺんに  
ふきとばしてくれるよね

姉ちゃんは料理は  
ヘタだけど 勉強は  
教えてくれるもんな



学校じゃ  
となりの席の  
ひろみちゃんだ

忘れものをしたボクに  
いやな顔一つせず  
教科書を見せてくれる



ボクってみんなから  
助けてもらってばかり  
じゃないか…

ムムツ…  
よし  
決めた!!

ねえ リビングの  
時計しらない？

私の目覚まし  
時計もないのよ



おしまい

# 平成31年・法音寺年間行事予定表

月	日	曜	行 事	月	日	曜	行 事	
1	1	火	新年祝祷会	7	7	日	講 日	
	2	水	〃		14	日	中国地区ほうろく加持・虫封じ	
	3	木	〃		17	水	講 日	
	7	月	初講日・交通安全祈願会		20	土	関東地区ほうろく加持・虫封じ	
	17	木	講 日		21	日	ほうろく加持・虫封じ	
	27	日	講 日(宗玄大徳祥月命日法要)		27	土	講 日	
				28	日	墓 経		
							関西地区ほうろく加持・虫封じ	
2	3	日	節分会・星 祭	8	4	日	孟蘭盆会	
	7	木	講 日		7	水	講 日	
	16	土	日蓮宗祈祷会		17	土	講 日	
	17	日	講 日		27	火	講 日	
	24	日	第298回報恩講習会					
27	水	講 日						
3	7	木	講 日	9	7	土	講 日	
	17	日	講 日		15	日	第301回報恩講習会	
	21	木	春季彼岸会法要		17	火	講 日	
	27	水	講 日		23	月	秋季彼岸会法要	
				27	金	講 日		
				28	土	信教師セミナー(～29日)		
4	7	日	講 日・釈尊降誕会	10	7	月	講 日	
	14	日	第299回報恩講習会		17	木	講 日・御会式	
	17	水	講 日		27	日	講 日・合祀供養	
	21	日	春季大黒・鬼子母尊神祭					
	27	土	講 日					
29	月	胎教児証書授与式						
5	3	金	浄心道場(～5日)	11	3	日	第37回御法推進全国大会	
	7	火	講 日		7	木	講 日	
	12	日	御開山会		10	日	秋季大黒・鬼子母尊神祭・七五三祈祷会	
	17	金	講 日		17	日	講 日	
	19	日	御開山会		24	日	第302回報恩講習会	
	27	月	講 日		27	水	講 日	
6	2	日	御開山会	12	1	日	本尊授与式・授戒会	
	7	金	講 日(御開山上人祥月命日法要)		7	土	講 日	
	17	月	講 日		17	火	講 日(日達上人祥月命日法要)	
	23	日	第300回報恩講習会		27	金	講 日	
	27	木	講 日(安立大法尼祥月命日法要)					

(注) 上記事項の変更、追加、及び団参等については事前にご通知いたします。

# 知恩報恩



ラン・カトレア

法音寺